丸山湿原群保全の会会報

（第 110 号）

発行日：平成 28 年９月 13 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会

〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
連絡先　090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

台風がたくさん日本に上陸しました。関西へはほとんど影響なく安堵しています。夏に雨が少なかったのですが、今度は秋雨前線がどうのこうのと、収穫期の作業に影響が出るのが心配です。

稲刈りが全盛期を迎えています。農作業・趣味・食欲と忙しい時期ですが、なんでも腹八分目を心がけるのが一番です。（私はいつも満腹でパンパンですが・・・）ご自愛ください。

（今住　９月 10 日作成）

活動報告

エコミュージアム主催　サギソウ開花数調査

★8 月 20 日（土）晴　（掲載写真は全て当日丸山で撮影したものです。）

保全の会5名　一般参加9名　計14名で活動。巡回、観察、サギソウ開花数調査

2016サギソウ開花数調査結果（第１湿原のみ実施）

区画番号	開花株数	備考	昨年開花株数（参考）（2015.8.19調査）
1	0	最上流区画	0
2	0		1
3	3		1
4	9		20
5	4		79
6	33（0）	（小湿地）	83（0）
7	7		66
8	26		87
9	21	最下流区画	26
合計	103		363

総開花株数　103株　過去最低の開花数となりました。残念！！

考察として・・・

- 今年は雨量が少なく水位が異常に低いこと。
- 水位が低い（水量が少ない）ことにより**ヌマガヤが多く繁茂していること。（観察しにくい）**
- 気温が高く開花時期が早まっている。（７月中に開花始まり）
- ３６１株（2013年）１８１株（2014年）３６３株（2015年）なので、株の栄養（花を咲かせる力）が隔年で蓄えられるという考えもできる。（柿などでよく見られます。）
- 現状としてサギソウの株数が減少（増加）傾向にあるかは分からない。
- **乾燥化をどう防ぐかが最大の問題。**

★8月27日（土）里山大学ご来場！

会員2名と武田顧問、矢倉氏（創造協会）がガイドを実施（里山大学ブログより転載）

里山大学とは

北摂の里山地域一帯をフィールドに、歴史・文化、里山管理、生物多様性、環境学習などをテーマに多彩なプログラムを展開する北摂里山大学。

里山の魅力、関わり方を学び、発見しながら、森林ボランティアや環境保全活動など新たな活動に取り組める人材を育成します。毎年春に募集を受け付けています。会員の方も受講されています。来年も実施されると思いますので、ぜひご参加を！（謝：協力金をいただきました。）

★8 月 28 日（日）定期活動 4 名参加　作業、観察

連日の活動ご苦労様でした。私は村（玉瀬）の作業で参加できなかったのですが、駐車場付近の草の整理が行われました。**セイタカアワダチソウを中心に抜き取りと刈り取り。**ただ、厄介なのは**セイタカアワダチソウは、繁殖力が強く撲滅はおろか、減らすことすら難しいのが現状です。**[要注意外来生物リスト[外来生物法] - 環境省]　に指定されています。

アメリカから観賞用として移入。萩の代用花としても使うそうです。また、ハチミツが大量に取れることから、養蜂家から歓迎されたとか。ただし、匂いがきつく日本人の口には合わなかったようです。

初めは、風媒花と思われ気管支喘息、花粉アレルギーの原因植物と思われていたのですが、虫媒花と分かりとりあえず汚名返上。しかも二酸化炭素の吸収量も抜群です。

では、なぜ困りものの植物かというと、**セイタカアワダチソウだけの植生を作る**からです。その秘密は、**種と地下茎両方で繁殖。加えて地下茎からは強力なアレロパシー（他の植物の生長を抑える物質）を出し他の植物を駆逐します。**なんかこんな人も世の中にはいますが驚きです。もっとおもしろいことに、**全盛を迎えたあとは、アレロパシーの自己中毒をおこし衰退していきます。**しかしまた、時間を置くと復活！スゴイ！対策は除草剤の初期散布、熱湯をかけるなどあるそうですが現実的ではありません。以前よりはバランスが取れてきて、あまり話題に上がることも少なくなりました。（あきらめか？）**間もなく開花期を迎えます。キク科　アキノキリンソウ属**

ちなみに、このアレロパシー（強いか弱いかは別）を出している植物は結構多いようです。（全て？）イネ（水稲）もちゃんと出しています。

★9 月１０日（土）定期活動　秋晴

１０名で活動。定期基礎調査、巡回、研究ごみ処理（塩ビパイプ）、観察、外来種除去

目的	市内	市外
丸山	23	68
ハイキング	8	3
その他	6	1

計 109 人

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度
入口	10：14	28℃	
視点場	11：16	27℃	
第３湿原	10：52	【22℃】	37μS/cm
第１湿原	11：16	【22℃】	39μS/cm
第２湿原	11：55	【26℃】	37μS/cm

【湿原までの道】

駐車場近くの**イチョウの木にミツバアケビ**がたくさん実っていました。まだ少し若いようでしたが、おいしくいただきました。**名は「あけ実」から「アケビ」が有力。**また**「木通」、「通草」**の字が当てられるのは、**つるの芯に細い穴が通っているため「木通」と書き、本来この字は木の部分を指すらしい。**中身だけでなく皮もいろいろ調理法があります。蔦は籠などに利用されていました。

ヒメアカネ

エントランス付近には、**アカトンボが。ヒメアカネ**です。アカトンボで一番小さなトンボ。**マイコアカネやマユタテアカネ**に似ていますが、**マイコアカネは側条が独特。マユタテアカネは顔に黒い斑点（豚の鼻のような　これが眉【マユ】なんですが）**があります。**アカトンボは、不均翅亜目（トンボ科）アカネ属のトンボのことです。キトンボ**のように赤くないトンボもいます。真っ赤なのにアカネ属でない**ショウジョウトンボ**もいます。これはアカトンボではなく**「赤とんぼ」**？。**ハッチョウトンボはハッチョウトンボ属なのでアカトンボではありません。あしからず・・・でも赤いから「赤とんぼ」です。**

何を言っているのかわからなくなりました・・・・・・

コアカミゴケ（ネット引用）

湿原の**丸太柵に、先の赤いかわいい苔（地衣類）が付いていました。**名前はちんぷんかんぷん？会員の一人が、「知ってるかも・・・」でも名前が出てきません。最近の会員はみなさんこの傾向があります。ストレスか・・・ですね。誰もみな通る道です。帰宅後連絡が入りました。**ハナゴケ科のコアカミゴケではないかということです。ロクショウグサレキンもときどき見かけます。**名前の通り銅に出る**緑青**の色をしています。染料にも使われているとか。同属の**ロクショウグサレキンモドキ**もあるらしいからややこしい。

こんな名前覚えられません！　　でも地衣類面白いかも・・・・・

【湿原の様子】

湿原は、もう秋の様相。**ミミカキグサ**はまだ残っていますが、**ホシクサ類**が全盛でした。特に**シロイヌノヒゲ**が多く観察されました。これも**イヌノハナヒゲ**や**コイヌノハナヒゲ**、**イトイヌノハナヒゲ**などが同所に生育し、名前がごちゃごちゃになります。

イヌノハナヒゲはカヤツリグサ（蚊帳吊草）の仲間。**イヌノヒゲはホシクサ（星草）**の仲間で覚えましょう。

第 4 湿原最下部には、大きく育ったサワギキョウがたくさん咲いていました。これは例年より遅いような気がします。花の下部はもう種になりつつありますが、先のほうはまだ開花前。しばらく楽しめそうです。全草に毒があります。

シロイヌノヒゲ（ホシクサ）

サワギキョウ

ヒメタヌキモ（食虫植物）

ヒメタヌキモも見つけました。水路を注意深く見れば見つかります。

シャジクモ類（フラスコモ）も見つけたのですが、これは同定が困難です。同定をお願いしていますので分かった時点で報告します。**不思議なことに、丸山湿原での藻類の報告はありありません。フラスコモはだいたいが絶滅危惧種。**また１つ貴重な植物が増える可能性大です。こうご期待！

次回活動日 ９月25日（日）10月８日（土）10月23日（日）ご参加ください。

※会報のメール配信希望の方は

E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com　にご連絡ください。

会報用の原稿と画像(丸山エリア)を募集！載せたい記事、こんな発見など、なんでも結構です。上記アカウントまで投稿お願いします。

開催予定　丸山湿原エコミュージアム主催（一般公開・無料・申し込み不要）

「丸山湿原セミナー」

１１月１９日（土）１３:３０～16：00

場　所　　西谷ふれあい夢プラザ（ホール）
内　容　　丸山湿原の「い・ろ・は」（武田義明：神大名誉教授）
不思議な水生昆虫ヒメタイコウチ（中濱直之：京大院農学研究科）
花（植物）と虫の不思議な関係（内田圭：東大院総合文化研究科）

（題は全て仮題）

ご予定を。宣伝・お誘いをお願いいたします。